



Atsuko Kudo Mail Magazine 218

2016. 03. 08 ●マドリッド、アーモンド、すし伝道

お元気でいらっしゃいますか？

3月に入ってから、ハンブルクは、夜には零下になる寒い日々が続いていますが、庭ではクロッカスが芽を出し、朝5時頃になると、アムゼル（クロウタドリ、ツグミの一種）が一斉に美しい声を響かせるようになりました。春の到来を告げる「鳥のうた」の合唱です。

●マドリッド

2月11日～15日、マドリッドへ行ってまいりました。旧友との再会、友人のスペイン人クリスチャンファミリー訪問、また「日本語で聖書を読む会」の吉川祥永（きっかわ よしえ）さん＆フェルナンドさんご夫妻、集会の皆さんと幸いな交わりの時を持たせていただきました。

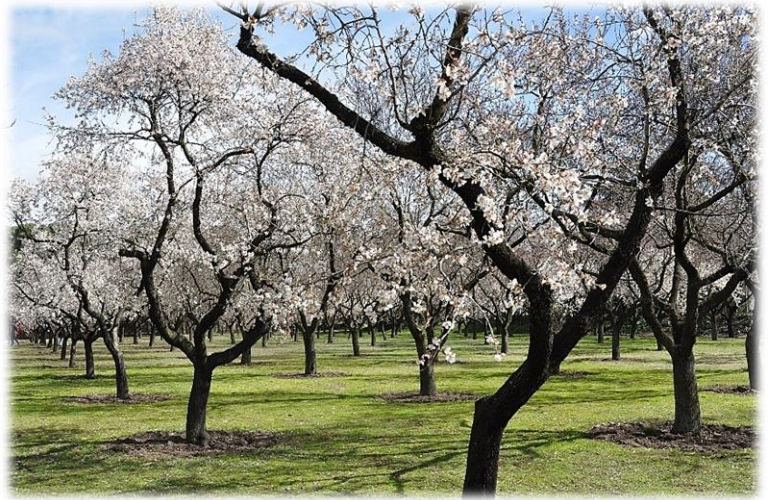


14日（日）には、昨年コンサートをさせていただいた、IBC（インマヌエル・バプテスト教会）の礼拝に出席、午後から、IBCのデイビット＆スージー牧師ご夫妻、日本語集会の皆さんと共に食事をし、また賛美をしました。アメリカ人牧師夫妻は英語で、日本人の私たちは日本語で。音楽的才能も兼ね備えたデイビット＆スージーご夫妻が、他声部を歌ってくださいました。何と美しいハーモニー（合唱）、何と心に染み入る歌詞！デイビット牧師が、終わりの祈りの中で「キリストの御座が見える

よう」とおっしゃったように、ほんとうに素晴らしい賛美の時でした。

●アーモンド

さて、マドリッド滞在先近くの公園は、何と桜が満開！と思いきや、アーモンドの花でした。冒頭の写真がアーモンドの花、右がアーモンドの木です。スペインにはいたる所にアーモンド畑がありますが、暖かいアンダルシア地方では1月ごろから開花、その美しさは桜そっくりです。しかし、よく見ると、アーモンドの花は、桜と違い、柄が短いので、枝から直接花が咲いているように見えます。



アーモンドは、旧約聖書の以下の箇所に出て来ます。

1. 主はモーセに、幕屋に置く金の燭台を作る際、支柱と6本の柄に、アーモンドの花の形をした節と花弁をつけるよう命じられました。(出エジプト記 25 章、37 章)

2. 会衆がモーセとアロンに逆らったために神罰で 14700 人が死んだ後、神は、「わたしが選ぶ人の杖は芽を出す。こうしてイスラエル人があなたがたに向かってつぶやく不平を私自身が静めよう」と言われました。そして 12 部族の族長の杖が並べられた時、アロン（レビ族）の杖だけが芽を吹き、つぼみを出し、花をつけ、アーモンドの実を結びました。ここから、アロンの杖は、アーモンドの枝だったことが分かります。そして、神は、アロンが、神が選ばれた祭司であることを、イスラエルのすべての部族に対して証明されたのでした。(民数記 17 章)

3. もう一か所、エレミヤ書一章には、以下のくだりがあります。

次のような主のことばが私にあった。

「エレミヤ。あなたは何を見ているのか。」

そこで私は言った。

「アーモンドの枝を見えています。」

すると主は私に仰せられた。

「よく見たものだ。わたしのことばを実現しようと、
わたしは見張っているからだ。」



ここでは、ことば遊びがあります。ヘブル語で“アーモンド”を「シャーケード」、「見張る」を「シャーカード」と言います。「シャーケード」（アーモンド）は、「シャーカード」（見張る）から派生した言葉。上記の聖書箇所は、エレミヤが、神のみこころを正しく伝えるために、神が語られたことばをしっかりと見張っていること、そして神ご自身も、ご自身のことばを成就するために、神のことばをその口に授けた預言者エレミヤを見張っている（見守っている、目を留めている）、ということなのだと思えます。

アーモンドの花は、どの花よりも真っ先にその美しい花を咲かせ、春の到来を告げ知らせます。そのように、時が来れば神のことばは必ず成就します。主は、今の時代を生きるキリスト者にも、「あなたは何を見ているのか」と問うているのではないのでしょうか。神のことばでしょうか。私自身を含めて、時に目がそれて、この世、人、あるいは周りの環境に目が行ってしまうことが多々あるのではないのでしょうか。「よく見たものだ」と主が喜んでくださるように、今日も、主の憐れみと恵みにより頼みながら、神のことばから目を離さずに歩ませていただきたいと思います。

●すし伝道

2月は、2度に亘ってすし伝道を企画しました。目的はノンクリスチャンの友人への伝道です。私が作り方を教えながら、皆で、巻き寿司、いなり寿司、握りずしを作り、一緒においしくいただきました。和気あいの雰囲気の中、話が弾み、自然と信仰の証しをすることができました。一回目は、教会員4人＋友人1人、2回目は教会員5人＋友人3人。そのうち、フランス人のN夫人が福音に心を大きく開いています。しかしご主人の反対に合い、教会にも聖書の学び会にも来ることができません。どうぞNさんの救いのために、また主がご主人の心を開いてくださるようお祈りください。



●賛美セミナー

今月から、教会のセルグループで、「賛美セミナー」を始めました。2月にリーダーから突然依頼があり、自分の教会に賛美セミナーを紹介することは願ってもないことでしたので、二つ返事で引き受けました。そして、急遽、友人の協力を得ながら、テキストをドイツ語に翻訳。日本語とかなりニュアンスが異なるドイツ語表現に翻訳するのに時間を要しましたが、ドイツ語訳と日本語訳の聖書、またヘブライ語原典を照らし合わせることを通して、セミナー内容をさらに深め、また幾多の新しい気づきも与えられました。

さっそく先週の水曜日に、セミナーの一時間目の講義である、「賛美とは何か？」を学びました。質問形式で進めて行きましたが、ポンポンと適切な答え、コメントが返ってきました。有意義な意見交換の場もあり、あっという間に40分が過ぎてしまいました。メンバーにとって、賛美への心が燃やされるひとときであったようです。今週は、詩篇51篇から「悔い改めを通してささげる賛美」について学ぶ予定です。

●お知らせ

❖第二回東京賛美セミナー（5月21日）

5月21日、花小金井にある弥生台キリスト教会をお借りして、東京での第二回目の賛美セミナーを開催することになりました。賛美について学びたい方は、どなたでも是非ご参加ください。

パンフレット、申込書 → <http://akworship.com/pdf/20160521.pdf> (AKWM ホームページからもダウンロードすることができます。)

❖賛美個人レッスン

東京で賛美個人レッスンを希望される方は、5月22日（日）の夕方5時以降、23日（月）全日、弥生台キリスト教会をお借りできますので、事務局スタッフの及川さんまで、メールか電話でお問い合わせください。

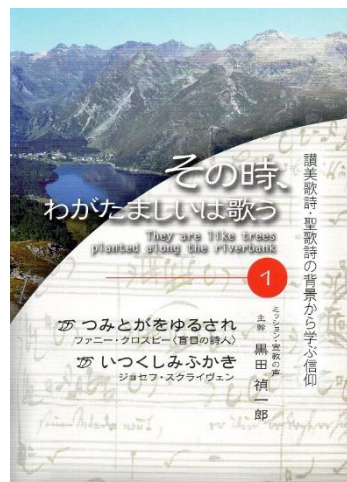
大阪で賛美個人レッスンを希望される方は、5月第一週目の連休中であれば時間を取ることが可能ですので、同じくメールか電話で、AKWM スタッフの及川さんまでご連絡ください。

❖第33回ヨーロッパ・キリスト者の集い

皆さまにすでにお知らせしました、「第33回ヨーロッパ・キリスト者の集い」の参加申込み切が迫ってまいりました。AKWMを通して参加を希望される方は、3月17日までにお申し込みください。

❖「その時、わがたましいは歌う」

AKWMの顧問である黒田禎一郎師の、「讃美歌詩・聖歌詩の背景から学ぶ信仰」のメッセージのシリーズ冊子のお知らせです。昨年12月に、まず第1巻が出版されました。内容は、ファニー・クロスビーの「つみとかをゆるされ」とジョセフ・スクライヴェンの「いつくしみ深き」です。作詞者の信仰に焦点を当てた励ましのメッセージです。また、「アメイジング・グレイス」と「主われを愛す」を取り上げた第2巻も、近日中に出版予定です。価格はワンコイン（500円）。皆さまにお勧めいたします。購入を希望される方は、「ミッション宣教の声」<http://vomj.jp/> に直接ご連絡ください。



~~~~~

難民問題で激しく揺れ動く欧州、中東。ニュースに出るのは、ネガティブなことばかりで、残念ながら、ポジティブなニュースはほとんど報道されません。しかし、ドイツの多くの市民の間では、難民を支援する動きが広まっています。また難民への伝道活動も活発化しています。ハンブルクの南西にある難民居住地区では、多くのイラン人難民がキリストを救い主として受け入れているそうです。反面、キリスト教改宗者は、イスラム教徒難民から大きな迫害を受けています。また、コソボから入ってきた難民の多くは「シンティ」（差別用語で「ジプシー」と呼ばれて来た少数民族）ですが、彼らの多くもキリストを救い主として受け入れています。どうか、多くの難民が、欧州で、キリストの救いを見出すことができますように。また救いに至った難民の歩みを主が守り、導き、キリストの証し人として立たせてくださいますようお願いください。

主イエス・キリストの平安と恵みが、  
皆さまと共にありますように。

Atsuko Kudo

